

2021年 4月 15日

2020年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 自立援助ホーム マルコの家
代表者・役職名 氏名 指導員 柏倉 匡

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

入居者のスーツ一式購入費用

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

前施設長の小田が元々里親をしておりますのでその経験から、行き場が無く親の支えも無く社会に放り出される子ども達を何とか自立へと歩む手伝いが出来ないか、との想いで設立しました。
平成22年7月1日設立、賛助会員は37人(寄付者208人)です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

入居者もこれから成人式や結婚式に呼ばれる機会も出て来ると思います。そんな時、これを着ていけば恥ずかしくない、これがあるから出席してみよう、と思えるようになれば社会からの孤立を防ぐ一助となると考えます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

面接や冠婚葬祭等に活用できるスーツ、小物として男子はスーツ、シャツ、ネクタイ、カバン、革靴等。女子はスーツ、インナー、靴、カバン、の購入。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

購入したスーツを今後面接や冠婚葬祭の際使用することが出来るようになり、当施設では高校生が多いため式典等ですぐにでも使用することになりそうです。また、面接の場で使用することもでき、非常に役に立ちました。今まで『着ていく服が無いから。』『行っても恥ずかしいから。』という理由で冠婚葬祭に行けず、退居後にどんどん社会から孤立していくことが退居者の課題でした。その課題を今回のプロジェクトで取り除き、社会との繋がりの一助となることを期待しております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

実施にあたり、男子と女子の1人当たりの単価で金額差が出てしまうため公平感を出すことに苦心しました。その為女子に対してはインナー類を大目に購入したことでバランスは取れたと思います。ただ、スーツは個人によってこだわりがあり値段に差が生じやすいので、購入品目の選択を次回からの課題としたいと思います。
今回は近い将来の投資のような意味合いのプロジェクトでしたので、今後はより生活に密着したプロジェクトを、と考えています。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



